

觀菩薩身心无歇且何以故我於菩薩一一  
毛孔中念念悉見无量无边莊嚴世界佛坐  
道場成等正覺於大眾中以微妙音轉正法  
輪說種種種猶多羅種種種諸乘種種清淨復次  
佛子我於菩薩一一毛孔中念念悉見諸衆  
生海各有所住及其境界諸根不同於三世  
中叢菩提心行菩薩行具大願海淨諸菩薩  
无量无边波羅蜜海及諸菩薩本生之海无

図版③ 国家図書館所蔵敦煌遺書BD1474との接合部分



談書会誌所載

オークション展覧写経



# 「落ち穂拾い記」 敦煌写経 ④ 51

図版④ 大谷文書の談書会誌との比較  
図版の京都国立博物館国際シンポジウム  
「敦煌写本研究の現在」  
2022年3月19日



図版④ 大谷文書の談書会誌との比較



藤枝晃氏の敦煌写本偽造説は、前号で紹介した毎日新聞の記事よりも10年以上前の1986年の1月22日の朝日新聞朝刊の一面上に「京都国立博物館所蔵敦煌古写経多数が偽物」と大きな見出しで報道されていた(図版①)。こうした記事の影響の大きさは、強烈なものであったと想像される。今回落ち穂拾いを書きながら、藤枝氏の論説発表時期を確認しているうちに、2022年3月19日に「敦煌写本研究の現在」をテーマとするオンラインによる京都国立博物館国際シンポジウムが開催されたことを知った(図版②)。午前10時から17時までの長時間の会であった。内容は、現在でもユーチューブで見ることが出来る。最近になり、敦煌学の方面でも、この藤枝説を見直す動きが出てきたようである。写本は清末から敦煌の石室から出て、商人等により売買され各地に拡がった。中には、悪徳商人による古い年号などを巧妙に追記して評価を高くするような行為は、中国の書画骨董等には古くから見られる。こうした藤枝説の影響の時期であろうか、18年程前に本郷の古書店から浜田徳海旧蔵と伝えられる敦煌写経が2回ほど売り出されたことがある。それほど高くなかった。書法の優れたもの、また唐以前の書風の数件の断簡を求めた。今回図版に示したのは、年号はないが随時代前の書風と思入手した(右頁主図版)。やや細身の字画であるが、伸びやかで結構も六朝の趣を示している。その後この写経の巻末が斜めに破れていた。この断簡を古書籍に詳しい中国の友人に見せたところ、北京の国家図書館所蔵の敦煌文献と照合され、書風と断簡末の破れ部分がそのまま完全に結合する写経を発見された(図版③)。そしてこの教紙ばかりの家蔵敦煌写経が、『大方広佛華嚴経』六世紀南北朝期写本(国家図書館所蔵敦煌遺書BD1474作品の前半部分)であることが判明した。その10年後2016年秋に、日本で開催されるようになった中国美術品等を販売するオークション市場で大量の敦煌写経に東京都心で偶然出会った。古書店の友人に敦煌古写経が出品されているからと誘われ出向いた。戦前の京都の大谷探検隊将来とする敦煌古写経であった。唐以前の北凉時代の古写経の残簡が中心である。簡単な額に入れて展示されていた。全部で75件、手持ちのカメラで無我夢中で写真を撮った。オークション図録に大谷探検隊将来と明示してあったので、帰宅後撮影したデータを整理し、家蔵の大谷探検隊の影印資料と照合して驚嘆した。大正の談書会誌に大谷家所蔵と明記されているものの原物を、数時間前に写した写真の中に数件見つけたのである(図版④)。まさしく大谷探検隊将来文書である。翌日再度見たくなり、会場に出向いたがすべて片付けられ見ることができなかった。後日、中国の筋から大谷の敦煌関係の文書のオークションは、中止するようにとの指示があったと。

伊藤滋(書齋名・木鷄室)



# 書道芸術院

## 令和の群像 (2024)



宮崎芳玉

### 志を「立」てて

小学校4年、コンクール応募作品のお手本を書いてもらったことが、師匠浜谷芳仙先生との出会いである。  
大学生になり、前衛書をやってみないかと誘われ、足を踏み入れた。初めて見る作品制作の場。先輩との出会い。師匠の鋭くもタイミングのよい声掛けで、場の緊張が

高まり、制作の気分がぐっと上がる。真っ黒になりながら、紙面いっぱい筆を動かすことがとても心地よかった。書くことがただ楽しかった。生きているという実感を味わった。家族からは、「カラスが田を踏んだようだ」と訳のわからない感想をもらい、真っ黒と大胆さでただ突っ走った。  
ある時、師から「リズムを考えているのか。」と問われ、先輩の真似をしてみたり、受賞した時の自分の作品の真似をしたりしてみた。「着物を着てハイヒールを履いて

いるような作品だ」と言われ、考えの足りない自分を感じていた。そのような中、生活に追われたり、仕事に行き詰まったりして、書なんてどうでもいいと思ったこともある。

「できるときでいい。今はこれでいい。」と、言われ、泣きそうになったこともある。書くことへの焦りや思い通りにいかないことへの苛立ちや落胆など、楽しさと無縁な境地に沈んでいることも多くなった。求める線と現れる線とのギャップをどのように埋めていくのか。まやかしの線や筆致の甘さや逃げの姿勢が、自分の生き方にまで迫ってくる。

「常に新しいものを」「自分だけのものを」「自信をもって」「ごまかすな」など、多くの言葉とともに、励ましてもらった。筆を持つと、師匠の声がたくさん聞こえてくる。今、書は、孤独を救ってくれたり、辛い気持ちを忘れさせてくれたりもする。筆と墨を持って、紙という船に乗って、冒険の旅に出ていると、感じることもある。いい旅ばかりではなく、あきらめてすぐに帰ってきたり、迷ったりさまよったりして訳が分からなくなったりもする。それでも、いい。

今年の元日、ここ富山県射水市は震度5強の地震に襲われた。能登の状況を知るたびに胸が痛む。生きていることに大きな感謝をしたい。

書と出会ったこと、師匠と出会ったこと、チャレンジできるものがあること、そして生きて筆を持つことに感謝をし、それを志に「立」て、何気ない毎日の中で、冒険の旅へのひと時を過ごしていきたいと思っている。



第74回毎日書道展「立」

宮崎芳玉書

# 書のひろば

理事長 下谷洋子

## 顧問 香川倫子先生ご逝去

本院の創立者の一員であった、香川峰雲・春蘭先生のご息女で、顧問の香川倫子先生が2月9日ご逝去されました。1986年から2004年まで本院副会長職に就かれ、毎日展や毎日現代女流書道展などの役員も歴任されました。先生は、ご母堂である春蘭先生の前衛書を引き継がれ、気品のある墨象系の前衛書を書かれました。特筆すべきことは、作家活動のみならず、本院の各部、各地方にまで幅広く目を配られ、次代の作家の育成に努められたことでした。葬儀は近親者で営まれましたが、6月15日精養軒にて、本院主催のお別れの会を予定していますので、ご参加下さい。(詳細は追ってお知らせします)

## 第77回書道芸術院展開催

第77回書道芸術院展は、これまでの不自由な制限から解放された喜びで、連日大変な賑わいを見せ終了しました。今回の表彰式は、浅草橋のヒューリックホールでの開催でした。その他の行事も、コロナ以前に戻り学生展は記念展でしたので、記念講演も行われました。行事日程が重なったことは残念ではありましたが、たくさんの方々に出席をいただき、活力の漲る会場になりました。(院展の報告は4月号に掲載)

## 第75回毎日書道展 主要人事決定

2月9日に第75回毎日書道展運営委員会が如水会館にて開催されました。記念展となる今回は、漢字部の出品規定の改訂や記念事業の開催など多くの事業が予定されています。

本院関係の主要人事・主要日程  
 ・運営委員(1月号に掲載済み)  
 ・会員賞選考委員  
 理事  
 下谷洋子(か)・小竹石雲(近)

その他  
 種谷萬城(漢)・田村鄭雲(近)  
 太田蓮紅(前)  
 ・当審査委員  
 名越蒼竹(漢I)、三浦鄭街(漢II)、  
 勝山初美(かI)、松村くに子(かII)、  
 坂本素雪・佐藤無極・広瀬丹雲(近)、  
 稲垣小燕・崎井恵風(大)、後藤大峰  
 (刻)、大石仙岳・倉林紅瑤・千葉紅  
 雪(前)  
 ・陳列部  
 副部長 山口仙草(前)  
 ・主要日程  
 4/9 事務局合同会議  
 5/13・14 受付・搬入  
 公募(U23、会友公募)は作品も搬入  
 会友は書類のみ搬入  
 5/15 篆刻・刻字搬入  
 5/24・25 鑑別  
 6/24・26 役員作品搬入  
 6/28/30 入賞審査  
 7/3 会員賞選考  
 7/4 文部科学大臣賞選考

○東京展「国立新美術館」

前期展I期

7月10日(水)〜7月15日(月)

前期展II期

7月17日(水)〜7月22日(月)

後期展I期

7月24日(水)〜7月29日(月)

後期展II期

7月31日(水)〜8月4日(日)

〔東京都美術館〕

7月18日(木)〜7月24日(水)

○北陸展「富山県民会館」

8月18日(日)〜8月22日(木)

富山、福井、石川の各県

○東海展「愛知県美術館ギャラリー」

8月20日(火)〜8月25日(日)

愛知、岐阜、三重の各県

○中国展「広島県立美術館」

8月20日(火)〜8月25日(日)

鳥取、島根、岡山、広島各県

○四国展「愛媛県美術館」

8月21日(水)〜8月25日(日)

徳島、香川、愛媛、高知の各県

○関西展「京都市京セラ美術館」

8月28日(水)〜9月1日(日)

京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

滋賀の各府県

○東北仙台展「せんだいメディアアテーク」

9月20日(金)〜9月25日(水)

宮城、岩手、青森の各県

○北海道展「札幌市民ギャラリー」

9月25日(水)〜9月29日(日)

北海道

○東北山形展「山形美術館」

10月16日(水)〜10月20日(日)

山形、福島、秋田の各県

○九州展「大分県立美術館」

11月12日(火)〜11月17日(日)

山口、福岡、佐賀、熊本、長崎、大分、宮崎、鹿児島各県

毎日書道展第75回記念  
毎日現代書巡回展

日程

○神奈川「横浜そごう美術館」

3月16日(土)〜3月24日(日)

○静岡「静岡県立美術館・県民ギャラリー」

4月16日(火)〜4月21日(日)

○群馬「高崎シティギャラリー」

10月4日(金)〜10月9日(水)

○鹿児島「鹿児島県歴史・美術センター黎明館」

10月16日(水)〜10月20日(日)

○豊田(愛知)「豊田市美術館ギャラリー」

10月23日(水)〜10月27日(日)

〔豊田市市民文化会館〕

第55回現代女流書100人展開催

毎日の現代女流書100人展が2月16日から19日まで、日本橋高島屋SC本館8階ホールにて開催されました。(特集5頁〜9頁掲載)

出品者は、毎日を代表する女性書人105人ですが、昨年の毎日書道展で会員賞に輝いた16人による「新進作家展」を併催しました。

初日の16日に、秋篠宮妃紀子さまが、ご来臨になり、運営委員の松井玉筆先生の解説により40分間鑑賞されました。

この講座も残り3回となりました。小竹先生にQ&A形式で自作を解説していただきます(編集部)。

問 谷川俊太郎の詩で「ココロ・こころ・KOKORO・心。文字の形の違いだけでもあなたのこころは微妙にゆれる」と書かれています。これを書こうと思った理由は何か?

平素の生活の中でもささいなことで心が揺れる自分がいる。作品制作時には自分を制御するが、心の置き処で作品が随分変わる。自分に正直にありたいとの思いからこの詩に取り組んだ。

問 篆書の「心」を大きく書いたねらいは何でしょうか?

詩の本文の漢字かなの変換はせず、書体は「読める」ものが基本とされている。草書や篆書は極力控えたほうがよいけれど、紙面での説得力を優先したため、このようになった。朗読を重ね書作しているうちに、気持ちが高揚したからだろう。

問 制作時、用具などの工夫は?

筆は中鋒羊毛で平凡なものを使用。紙はにじみの少ないものを選択したので上滑りしないように遅筆で書いた。紙に対峙するもうひとりの自分とのキャッチボールを楽しんでみたかった。

問 書き上げた時、どんな思いがあったのでしょうか?

書くにつれて当初の思いから外れて迷路に入ってしまった、終着駅も見つからず中途半端な作となってしまう。しかし、最後まで書作を楽しむことができたと思う。

問 今、改めて振り返って感想を。

心というものはいかようにも変化し、それが楽しくもあり恐ろしくもある。楽しい心の追求は可能か。恐ろしさの追求は大変だと思っけれど。



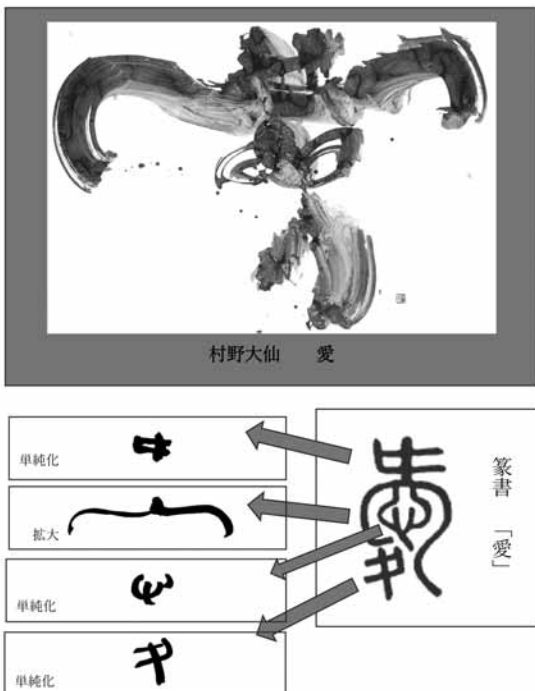
第49回「日本の書展」(2021年)出品作

基礎基本講座

村野大仙先生は、古典の臨書に徹底して取り組む作家であり、その作品は篆書の柔らかさと書を持つ筆のリズムを見事に融合させた軽やかなものが多い。また、墨色にもこだわりを持っており、墨色の選定においても、独自の感性や美意識が反映されている。

今回取り上げた作品は、篆書の「愛」という文字を素材としながら、愛の意味を深く掘り下げ、すべてを抱え込むような造形が織り込まれている。墨色も独自の色合いを表出している。

講習会での指導も印象的で、安易な見方をした古典について注意され、「名品には安易に書いているものはない」という言葉からも古典に対してどれだけ真摯に向き合っているかがうかがえる。



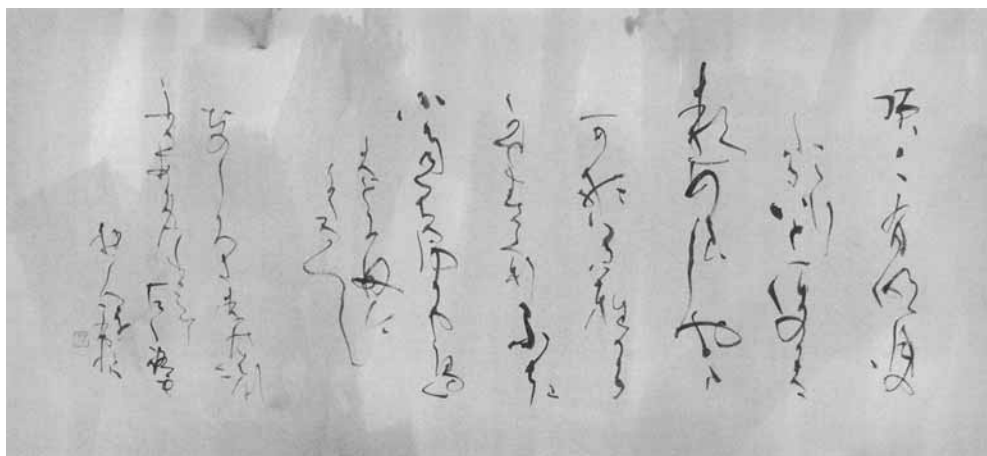
第55回

# 現代女流書100人展

同時開催＝現代女流書新進作家展

- ・2024年2月16日(金)→2月19日(月)
- ・日本橋高島屋S.C.本館8階ホール

〈運営委員〉  
下谷洋子



〈頂に〉与謝野晶子

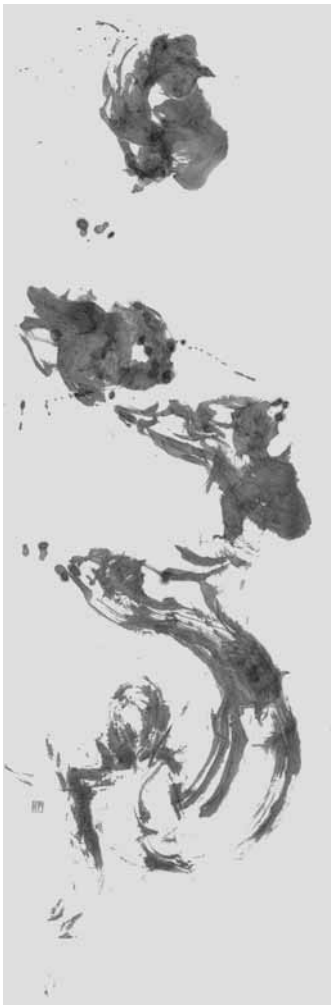
60×132cm

頂に 与謝野晶子

頂にありあけ月の  
残りたるいとほのかなる  
あらし山かな  
春ながら風少し吹き  
小雨降る夕などにも  
今似たるべし  
ほのじろき李の花に  
降る雨も見て心燃ゆ  
人を恋ふれば



〈夢〉



大井美津江

180×59cm

〈春回〉 楊萬里



加瀬澄春

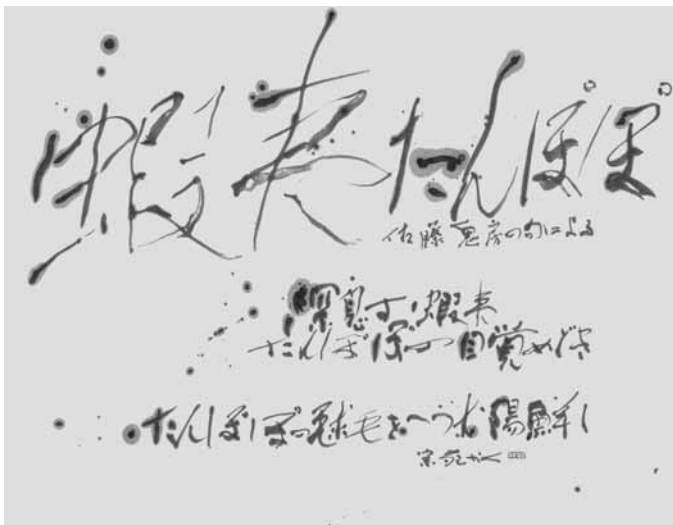
175×61cm

〈折り〉「紺紙金銀泥交書」 官弘子 飯高和子



34×123cm(×2)

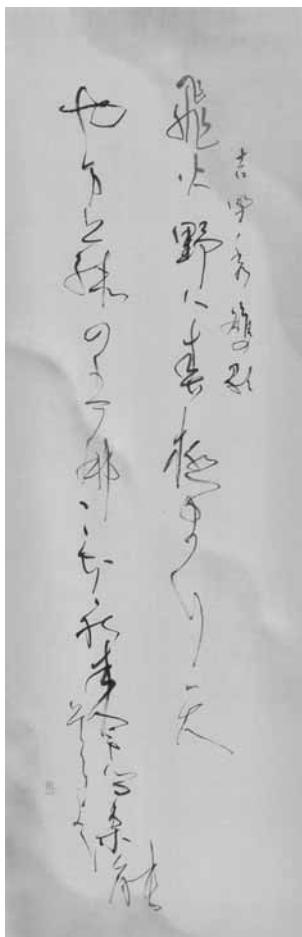
〈佐藤鬼房の句〉



熊谷宗苑

103×134cm

〈飛火野〉



大辻多希子

183×60cm

〈袋田滝「百日紅」秋山綾子〉



佐久間 幸扇

170×74cm



〈爰〉



北村白琉

181×76cm

〈兆〉



飯田春香

137×106cm

〈風の舞〉



福島李舟

182×79cm

新進作家展

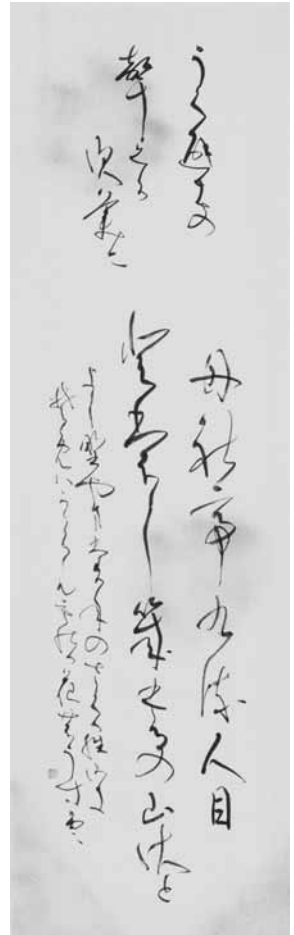
〈綱〉



岡村恵窓

89×120cm

へうへいすの西行『山家集』



京 絹子

175×53cm

【書道芸術院関係出品者】

運営委員

(か) 下谷 洋子

100人展

(漢) 加瀬 澄春

(か) 大辻 多希子

(近) 飯高 和子

熊谷 宗苑

佐久間 幸扇

(大) 飯田 春香

(前) 大井 美津江

北村 白琉

福島 李舟

新進作家展

(か) 京 絹子

(大) 岡村 恵窓

古典鑑賞

466

蜀素帖 (宋・米芾) ③

漢字研究部臨書課題

特別研究部臨書課題

|| (半紙普通判・縦使用) 左記掲載部分より何文字臨書してもよい。

|| (A:大作の部 毎日墨筆書賞、盒サイズ以内、2×6尺・盒高) 当該古典の左記掲載部分以外も可。  
(B:小品の部 半切以上半切以内、縦以内も可) (A・B:縦自由)

※落款を必ず入れる。  
署名、もしくは〇〇  
臨 (押印のみも可)

〈解説〉今月は蜀素帖の首目の「重九会郡楼(重九に郡楼に会す)」と題された七言律詩の前半部である。帖も中盤を迎え、最も感興に乗り、気分良く運筆している部分である。前回までの「擬古」はじっくりと筆を運び、堂々とした字が多かったが、こちらはそれに加え、細い線を多用しスピードが強調されている。それでいて弱くならないのが見事である。王羲之の蘭亭叙と共通する字を下に並べてみた。ご研究を。

(編集部)

清 氣 群 賢 畢 至

(蜀素帖)

清 氣 群 賢 畢 至

(蘭亭叙)

山清氣爽九秋天  
紅葉滿泛舟千里結言寧  
有後群賢畢至猥居前

山清氣爽九秋天。黃菊／紅葉滿泛舟。千里結言寧／有後。群賢畢至猥居前。

(台北故宮博物院藏)

(掲載図版原寸)

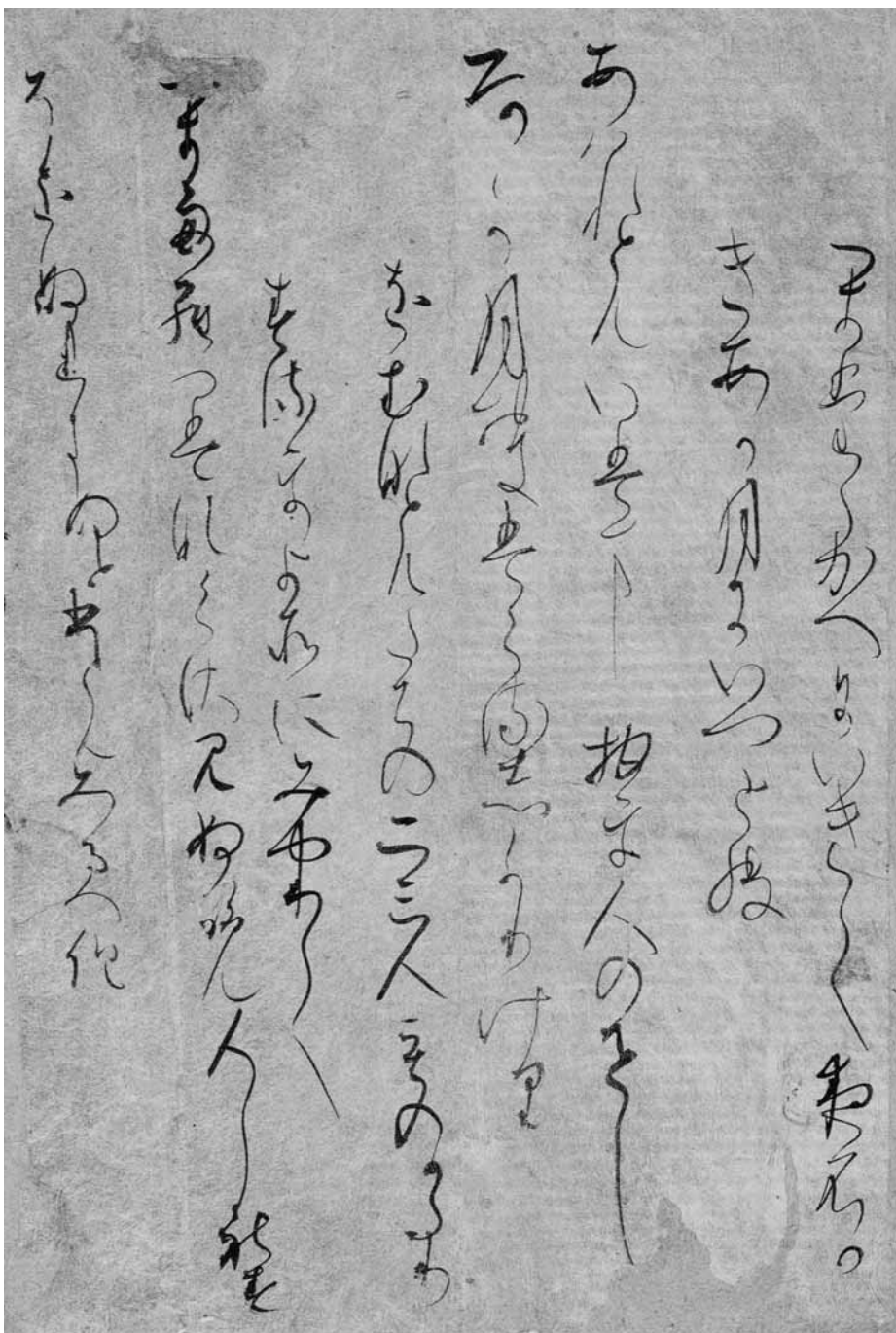


和泉式部統集切  
(伝藤原行成筆)

③

【解説】

今月は「統集切」第二種(乙類・下巻切)から掲出した。前回までの第一種はリズムのある快い運筆が際立っていたが、この第二種では大らかで穏やかな運筆に変わっている。字粒はやや大きくなり、字間もゆったりと取っていることで、より流麗なリズムが表出されている。今回の課題では田やかな和様漢字も学び取りたい。4行目の「阿」は「あ」と書こうとして筆目で急に気が変わったような書き振りで興味深い。(編集部)



(東京国立博物館蔵)

※掲載図版・90%に縮小  
(P50に見やすい図版があります)

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみも可)

かな研究部臨書課題

(半紙普通判(料紙可)・縦長に使用)別紙を裁断して貼付も可。半懐紙は半紙サイズに切って使用のこと。上記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)

特別研究部臨書課題

A. 大作の部=毎日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可  
B. 小品の部=半切½以上、半切以内(縦横自由)、全紙½以内も可  
<いずれも上記の掲載以外も可。>

へよみ かつたがへにいきて夜ふかきあか月にいとてあはれともいはまし物を人のせしあか月おきはくるしかりけりをむな  
ともだちの二三人ものがたりするをよそにみやりてかたらへばなぐさ見ぬ覽人しれずそをぬれきぬとひとみみるべく

※古筆は原寸(以上も可)で臨書して下さい。

故園花自發

大明



故園花自發

よみ (故園花自ら発く)

書体 自由

習い方解説 (6)

小浜大明

故園花自發

(故園花自ら発く)

(杜甫)

故郷では花は時をたがえずに咲く

最後になりましたが、前回同様、篆書体で書いてみました。楷行草のみにとどまらず、「五体」に精通していることも大切かと思えます。篆書体の線はほぼ均一な太さで書くこと、字形は左右対称であることなどが大切です。筆を立てて穂先が線の中心を通るよう心がけて書いてみて下さい。

〔注〕「花」は六朝時代に俗字として作られた字。もとの字は「華」です。

〈参考〉



漢字規定 秀級以下 【4月15日締めきり】 用紙 半紙普通判

西川翠嵐選書

五 豊

翠嵐書

穀 穰

五穀豊穰

よみ (五穀豊穰)

書体 楷書

習い方解説 (6)

西川 翠嵐

五穀豊穰

(五穀豊穰)

〔古事記〕

穀物が豊かに実ること。

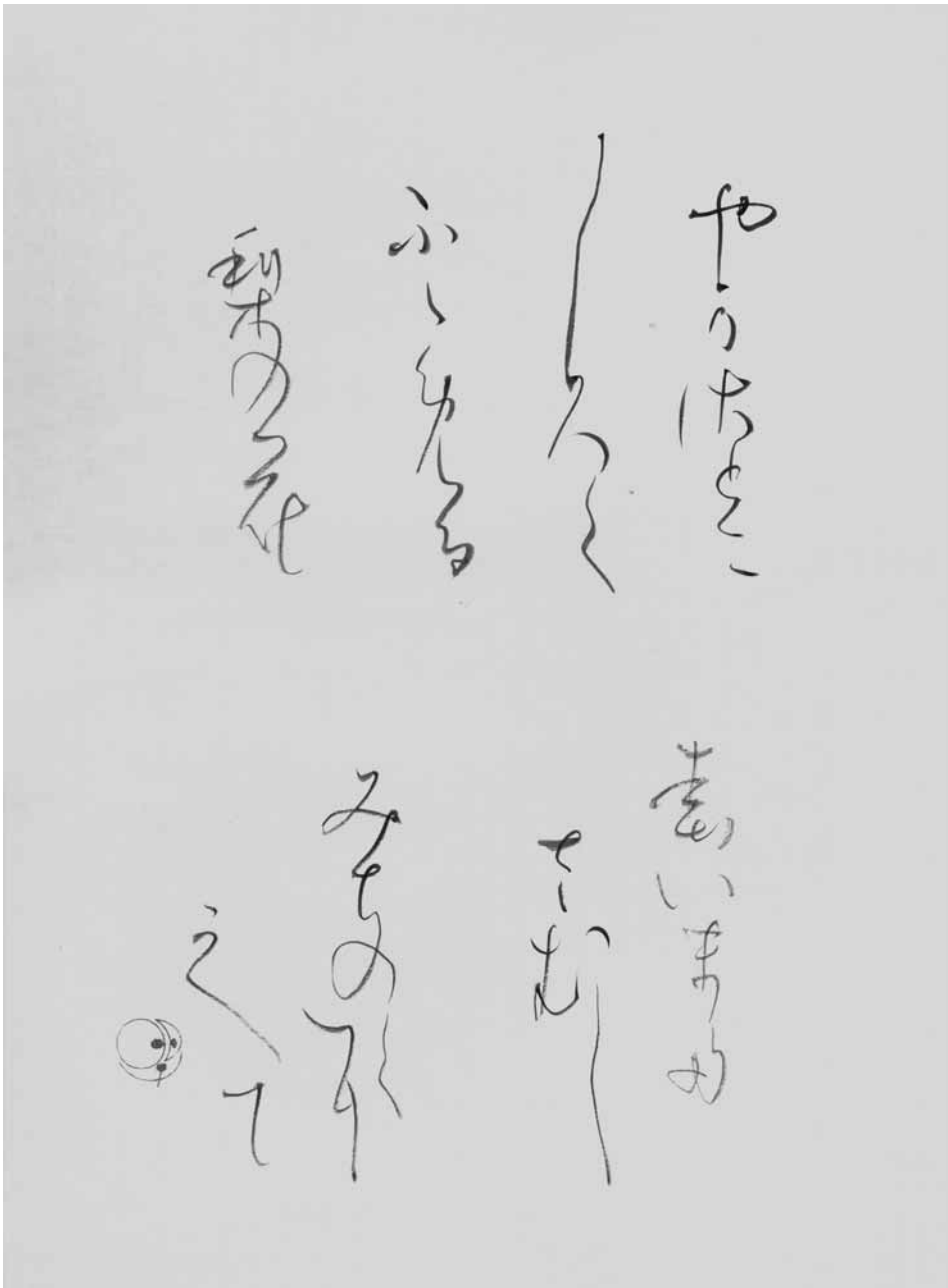
今回は褚遂良の「雁塔聖教序」を念頭に書きました。褚遂良は、唐の太宗に仕え、貞・欧亡き後、書の真贋の鑑定や王羲之の書の臨摹等でも重用されました。その書は、躍動的で流麗、抑揚と粘りが特徴で緩急・強弱の変化に富み大変情趣豊かです。中でも最晩年に書かれたこの「雁塔聖教序」は、天竺より帰朝した玄奘が持ち帰った仏典を収めた雁塔の正面を飾るため、太宗とその皇太子だった後の高宗が選文をした2碑を指し、細身でありながら悠然として時に行草的な部分もありますが、実に見事な楷書です。原本を良く臨書してその特徴をつかんで創作してほしいと思います。

元日から大変な災害に見舞われた新年ですが、被災地の一日も早い復旧を祈り実りの年となることを願うものです。



習い方解説 (3)

石井明子



山里やまさとに白くしろふふめる梨なしの花はな  
春はるいまださむ寒さむしみちのくくにして

(平福百穂)

山里に白い蕾がようやくふくらんできた梨の花よ。春とはいえまだ寒い。このみちのくは、の意。

平福百穂(1877-1933)、秋田県生まれの日本画家で「アララギ」の同人。一芸に秀でた人の感性は豊かで、深く引きつけられます。どう書くかの思いより、好きな歌として選びました。

全体が重くならないよう心がけ上下に分けて構成してみました。どこで歌を切るかは各自自由に考えてよいと思います。私は平素から「こうでなければならぬ」ということはなるべく排除してものを考えるようにしています。その方が、自分らしいもの、新しいものを生む可能性が残ると思うのです。どんなに手本を参考にしても違いが出るのがあなたの個性です。

(注) 墨つきは下段「さ」です。

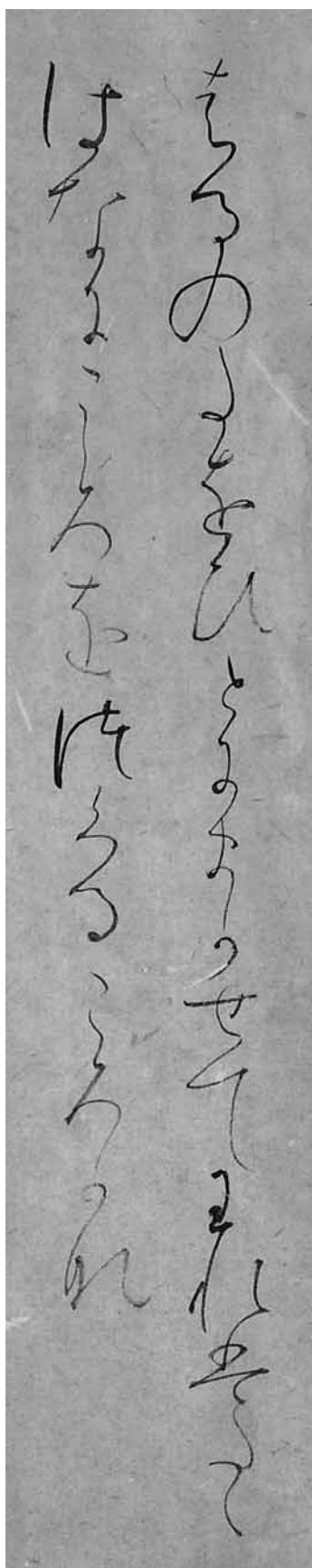
よみ方

上段 山(や)方(方)里(佐と)に(二)白(しろ)く(久)ふふ(ン)め(免)る梨の花  
下段 春(はる)いまだ(多)寒(さむ)しみちのく(久)に(耳)し(ク)て

創作

\*料紙は半紙版(33.0×24.5cm)を使用しましょう。半懐紙は上記のサイズに切って下さい。

かな規定 秀級以下 【4月15日締めきり】 用紙 半紙タテ1 $\frac{1}{2}$  (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)  
 掲載写真の和歌を臨書する。部分臨書も可。〈注〉署名は「〇〇臨」。粘葉本和漢朗詠集(掲載写真拡大120%)

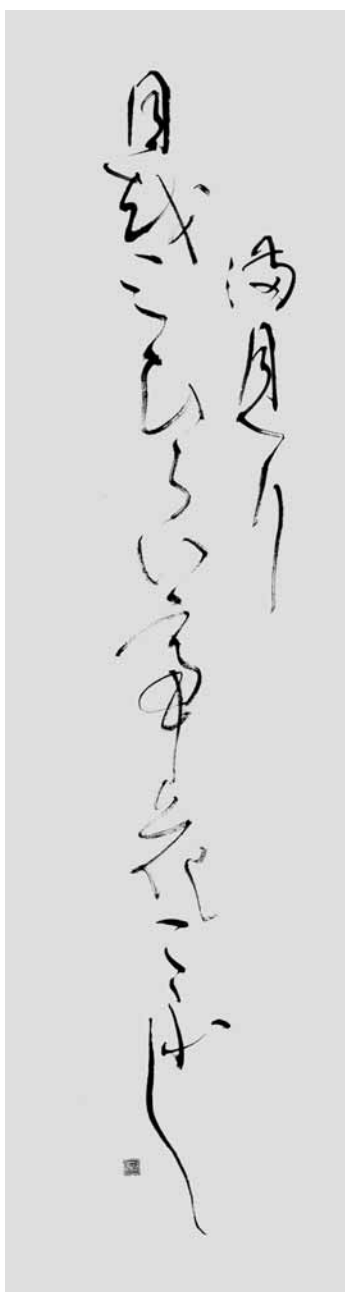


よみ方 はるのたをひとにまかせてわれはたゞ  
 はなにごころをつくるころかな

歌意 春の田んぼを他人に任せて種をまき、その一方で私は桜の花に心を尽くす(夢中になる)  
 時節を楽しんでおくとしようよ。

### 習い方解説 (3)

かな条幅規定 【4月15日締めきり】 用紙 小画仙紙半切(料紙可) 勝山初美 選書



よみ方 満月に(耳)目を(越)み(三)ひらいて(帝)花(こ)ぶし

※タテ形式に限る

創作

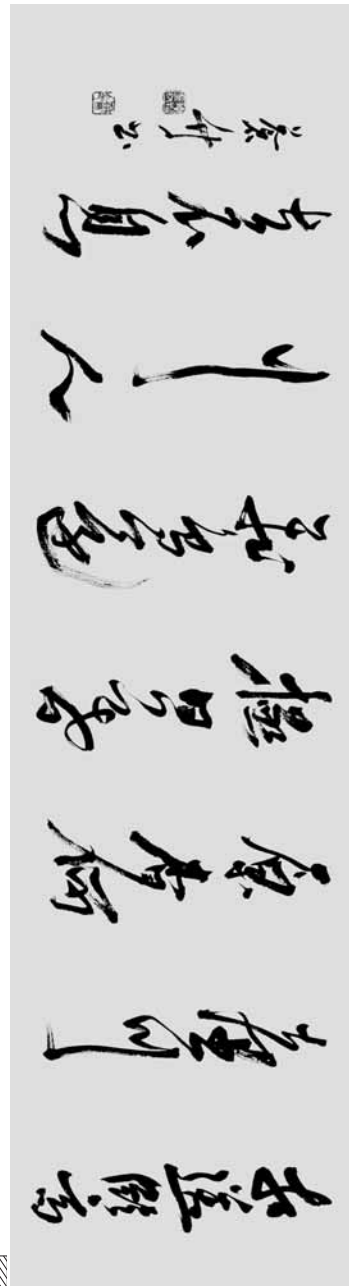
勝山初美  
 満月に目をみひらいて花(こ)ぶし  
 (飯田龍太)

こぶしの花が満月に照らされ、美しく咲いた景です。「目をみひらいて」の擬人化は花びらが白く開き切った様をとらえています。

俳句ですので原文に近い文字を使用し、流れを考え変体がなも使いました。構成は基本的な2行書きです。冒頭の満月は、2行目との調和を考慮してやや小さめに書き、2行目は気脈による文字の流れを意識してみましよう。墨継ぎの「こぶし」では墨量の加減に注意して下さい。

漢字条幅規定 初段以上 【4月15日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

名越蒼竹選書



習い方解説 (6)

名越蒼竹

相送臨高畫 川原香何極 日暮飛鳥還 行人去不息  
(相い送りて高台に臨めば 川原香として何ぞ極まらん 日暮飛鳥還る 行人去って息ます。)

書体||自由

出品券  
貼付位置

漢字条幅規定 秀級以下 【4月15日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

飯沼恵鳳選書



書体||自由

鹿門月照開煙樹 忽到龐公棲隱處 (孟浩然)  
(鹿門 月照らして 煙樹開き 忽ち到る 龐公棲隱の処)

習い方解説 (6)

飯沼恵鳳

※ヨコ形式に限る

今月は横形式への挑戦です。今回シリーズの明清書人の中で多くの横物を残している一人が張璠です。吳昌碩に似て切り込むような筆遣いと木の葉がひらひらと舞い落ちるような運筆が特徴で、行間はかなり広く取っています。文字の懐ろは狭い印象ですが、頭部は点画を詰めず、余裕があります。書風と技の関係を理解して下さい。

私の担当は今月で終わりです。今月は、唐時代の孟浩然の漢詩より「鹿門月照開煙樹忽到龐公棲隱處」です。読みは「鹿門(ろくもん)月照らして煙樹(えんじゅ)開き忽ち到る龐公(ほうこう)棲隱(せいゐん)の処」です。「龐公」とは後漢の隱者「龐徳公」のこと。

単体の行書で書きましたので、文字の大小、細太、潤濁の変化等を心掛けて、堂々と自由に書作してみましよう。



春のうららの隅田川  
 のぼりくだりの船人が  
 權のしずくも花と散る  
 ながめを何にたとうべき  
 滝廉太郎作曲「花」紅瑤書

◇用紙 ハガキ大(14.8×10cm)の白紙を使用  
 ◇黒インクのペンを使用(ボールペン・フェルトペン可)

書体＝自由

【注意】  
 用紙の大きさにばらつきが見られます。  
 用紙サイズ(ハガキ大14.8×10cm)を守ってください。

春のうららの 隅田川  
 のぼりくだりの 船人が  
 權のしずくも 花と散る  
 ながめを何に たとうべき

滝廉太郎作曲「花」 ○○書

童謡・唱歌「花」は、明治33年(1900)共益商社出版から刊行された滝廉太郎の歌曲集「四季」の第1曲です。「花」が春、「納涼」が夏、「月」が秋、「雪」が冬の歌として収録されています。西洋音階と日本語の歌詞を融合させたこの歌曲は、美しい音楽を追求する廉太郎の思いが結実したもので、高い評価を得ました。中でも「花」は100年以上が過ぎた今でも歌詞と旋律がもつ新しさを失わず、人々に愛唱されています。

◇「平がな」の基本—まとめ—

5回にわたり平がなの単体の字形や連綿の法則・要領について解説してきました。さらに連綿特有の美しさを発揮するために、運筆の速度やリズムが大切です。

日常生活の中で手紙など漢字かな交じり文を書く場合、漢字とかなの調和をはかるために、平がなは漢字よりやや小さめ、いくぶん連綿にします。漢字は行書などを用い、柔らかめに書くとういでしょう。

コンピュータは確かに便利です。仕事をすすんで欠かせないと言う人もいますでしょう。しかし、手書き文字だからこそ伝えられることもあるはず。決してうまく書けなくても、心をこめて文字を書くことの喜びを大切にしてください。

# 謝恩会のお知らせ

日時 卒業式終了後  
場所 ミーティングルーム

剣道部顧問の田中先生が今月で  
ご退職なさいます。さ、やかな会を  
企画いたしましたのでご参加下さい。  
開始時刻は放送にてお知らせ致します。

幹事 西川 翠嵐

謝恩会のお知らせ／日時 卒業式終了後／場所 ミーティングルーム／剣道部顧問の田中先生が今月で／  
ご退職なさいます。さ、やかな会を／企画いたしましたのでご参加下さい。／開始時刻は放送にてお知らせ致します。／幹事 氏名

書体 自由

- ◇小筆・筆ペン・サインペンなどを使用 署名は各自の姓名(号)を (掲載手本85%に縮小)
- ◇用紙は普通版半紙横 $\frac{1}{2}$ (24.5×16.5cm) B5版コピー用紙(26.0×18.1cm)も可
- ◇所定の出品券を作品の右下に貼る



漢字条幅部 師範 小山内谷玲  
細太、潤濁の変化を効果的に配置し、線に細やかな表情を加える筆法も巧妙。魅力溢れる行草書。

◎漢字条幅部総評 下級1行は中心線の意識が大切。上級行草書は大小、疎密の変化に巧拙が見られた。全体感を大切に。(萬城評)



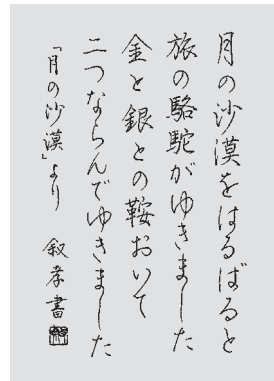
かな条幅部 準師範 西川 藤象  
魅力のあるかなとして取り上げました。抒情的な趣きの中に、見事な筆の開閉のリズムが実に快い。

◎かな条幅部総評 文字の大きさや太細をどの位にしたらバランスよく美しいか!この感覚は各々の感性によるので難しい。(洋子評)

漢字部 師範 中嶋 澤  
木簡のもつ自由闊達さが痛快。筆の開閉をもってリズムをとり、氣宇雄大な統一感がすばらしい。  
◎漢字部総評 書の根本は筆線。その筆線に生彩感をもたせた運筆が大切。古典学習で何を学ぶかを自問自答してほしい。(石雲評)



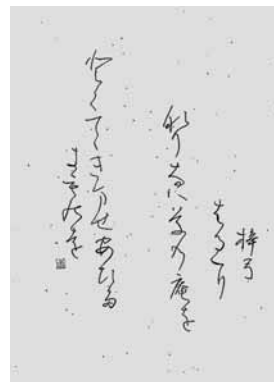
現代詩文書部 特選 鷺山 美梢  
深く沈み込む潤筆線が紙面を捉え、強靱な渴筆線が紙面全体を見事に支える。  
◎現代詩文書部総評 多種多様な構成・空間処理に感服。半面誤字が散見されるのが残念。(無極評)



ペン字部 師範 安藤 叙孝  
文字の配列大変美しい作品。文字の大きさ、中心、字間行間調和良く整い完成度の高い秀逸作です。  
◎ペン字部総評 漢字の配列が沙漠・駱駝・銀と同じ様な場所に位置されたため字間行間のバランスに苦心の跡が伺えました。(雪枝評)



前衛書部 特選 岩上 郁子  
線が軽やかに舞っている。大きくとった余白、飛沫がさらに躍動感を見せ独創的な作としている。  
◎前衛書部総評 創意工夫は「一日にして成らず」。日頃の挑戦と努力の賜物であることを。(蓮紅評)



かな部 師範 田畑寿美子  
過不足ない表現が眼にも心にも優しく響く。かなの力を難なく身につけてしまった天性と拝察する。  
◎かな部総評 平素からの漢字の学習の成果が伺える作品が多く好ましく拝見。人を引きつけるには総合的力が求められる。(明子評)





前衛書部 (特選)

現代詩文書部 (特選)



紫千 躍動感、白黒の対比美  
 青湖 線のキレ、鋭く軽妙に舞う  
 佳月 放射線状に動く線が雄大  
 倫果 力強い渦状の線が圧感  
 浩美 構成と墨色の温かみ響く

梨秀 空間に飛沫、雄大無限作  
 琢翠 潤濁の線が喜びの舞表現  
 麗芳 線の質感の違い表現見事  
 敦子 構成、躍動感、見事融合  
 覺山 墨の濃淡効果が冴える

選評 太田 蓮 紅

帆乃佳 強靱な線が紙面を舞う  
 彩苑 鍛錬された線が魅力の作  
 李花 気宇雄大強靱な細線見事  
 朱郷 線勁く穂先の開閉が流麗

久仙 気宇雄大筆勢に気迫感  
 千華 筆勢厳しく躍動感溢れる  
 間美 骨力ある線が紙面を躍る  
 恭子 紙面構成見事に捉えた作  
 藤漣 洗練された運筆が見事

和楓 骨力ある直線構成が見事  
 萩月 淡々として味わい深い作  
 麗子 運腕大で骨力ある線見事  
 喜代美 沈着した線に気魄が籠る  
 翠里 溫和で魅力溢れる快作

葵龍 巧みな構成で白が生きる  
 一恵 練度高く渴筆細線が流麗  
 永舟 淡々として味わい深い作  
 景燁 筆勢が漲り躍動感溢れる  
 芳博 穂先の開閉・潤濁が流麗

選評 佐藤 無 極

今月の

# 特別研究部優秀作品(特選)

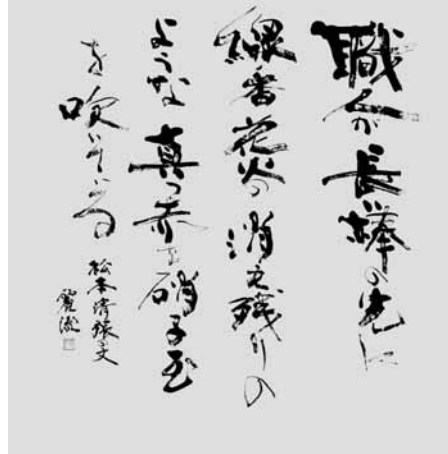
選評 下谷洋子 種谷萬城 田村鄭雲 倉林紅瑤

## 小品の部

現代詩文書

(四枝社)

奥川麗流 「松本清張の文」



奥川麗流書

69×68cm

◆ 熟練した筆致で線の末端に到るまで慎重に運筆されている。文字の造形も自然で美しく読み易いが、リズムミカルで余白が美しく響く。響きのある書。(鄭雲評)

臨書 (大雲)  
宮原香扇  
「蜀素帖」



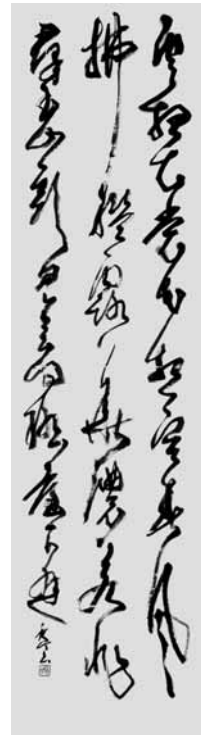
宮原香扇臨

135×35cm

◆ 筆勢が素晴らしい。切れ味のよい線が冴える。余白も美しく爽快。気魄が籠り充実した精神性の高さを感じる。見事な臨書作品です。(萬城評)

(萬城評)

漢字 (水莖) 高岡秀汀 「清平調詞三首」

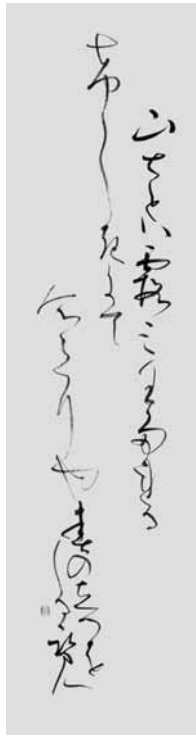


135×35cm

◆ 綿々と続く線は、途切れずに1行を貫通させている。縦長の字形と行間の余白が効果的に働き、行の流れを強調。強靱な線も魅力的な作品。(萬城評)

(萬城評)

かな (潮音) 齋藤杏邑 「山家集より」



135×35cm

◆ 霞の歌に料紙の色が映え、軽やかなリズムが際立つ。楽しんで書いている様子が見る者を癒す洗練されたかな作品。この上はさらに自由に奔放に！(洋子評)

齋藤杏邑書

## 〈小品の部〉

創作の部(53点)

漢字 7点

かな 2点

現代 23点

篆刻 0点

前衛 21点

臨書の部(52点)

漢字 52点

かな 0点

総出品点数 105点

〈特選候補者〉

〔漢字〕

もく青木 藤漣

〔現代詩〕

玄穹 尾形 紅霞

蓉花 坂本 蓉花

玄穹 佐藤 陽子

大拙 岩崎 成山

陽陽 陽子

〔前衛〕

華芳 庄司 紫千

趙雲 吉田 恵弦

蓮紅 大友 紅蓉

月華 三塚 倫果

秀水 坂井 初江

〔臨書の部〕

〔漢字〕

華祥 小泉 潤

紅瑤 原島 景汀

八街 田畑 春景

天満 三浦 明樹

もく 加藤 雅芳

華祥 加藤 雅芳

蒼原 加藤 雅芳

英千 石川 昌弘

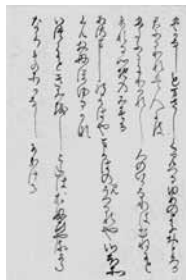
千葉 山崎 桂香

清月 境野 和子

臨書 (千葉) 猪又理扇 「和泉式部統集切」

大作の部

部分拡大



猪又理扇臨

45×123cm

◆統集切のkokのある線と迫力を巧くとらえた。細線の爽やかな切れにも注目したいが、骨気に敬服！墨色はもう少し濃い方がよい。(澄子評)

前衛書

(白珠) 大塚桃子 「ストリンジエンド」



135×70cm

◆弧を描きながら、躍動感のある筆致がスケールの大きな世界を生み出している。気迫に満ちた斬新な造形に圧倒される。(紅瑠評)

漢字

(八街) 小川白柳 「五言絶句」



180×53cm

◆羊毫長鋒を巧みに用い、躍動感溢れる線は潤濁、細太の変化に富み、表情豊かで魅力的。余白も美しく明るい作品。(萬城評)

現代詩文書

(もくせい) 西川藤象 「島木赤彦のうた」



176×45cm

◆短歌を作品に書くのは難しいが、文字の造形、線質の変化、墨量の強弱を駆使し、格調が高い。作者の技量が發揮された。(鄭雲評)

西川藤象書

〈大作の部〉

創作の部(29点)

漢字 4点

かな 3点

現代 6点

前衛 16点

臨書の部(16点)

漢字 13点

かな 3点

総出品点数

45点

〈特選候補者〉

〔創作の部〕

〔漢字〕 誠和 石崎 甘雨

〔かな〕 水荃 清水 蘭舟

水壑 伊澤 香雨

〔現代詩〕 八戸 市川 紫泉

宗苑 白井 真理

〔前衛〕 白珠 石澤 徳子

紅瑠 竹内 成美

大拙 阿部 俊吾

月華 浅野 玉翠

紅瑠 川田 弘子

白珠 西山 葵龍

松風 西條 松雲

紅瑠 廣田 紫

〔臨書の部〕

〔漢字〕 たか 浜野 永重

森地 東平 絹子

紅瑠 相澤 敦子

もく 本郷 敦恵

千葉 平野 笛舟

大雲 江本 興舟

千葉 竹浪 叙舟



漢字研究部  
(蜀素帖)

選評 川島舟錦

今月のホープ作品



吉田 恵 弦

漢字研究部 特選 吉田 恵 弦

よく古典を研究し、素直な気持ちで向き合っ  
て練習を重ねた作品です。筆の動きや働きが  
力強く、すみずみまで見えます。流動の美を  
感じます。新鮮で、すがすがしい作品です。

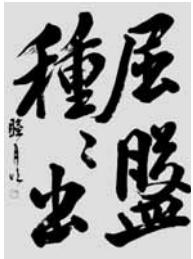
◎漢字研究部総評

書道芸術院の先人の皆様は、歴史と伝統を  
継承し、新たな創作の道を歩んできました。  
伝統と現代が入り混じる書美の探求、瞬間の

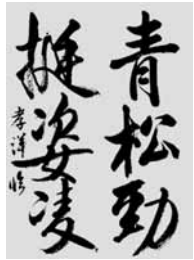
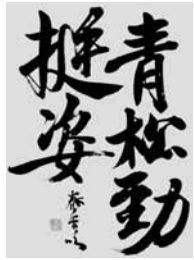
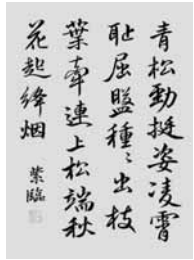
筆の軌跡や、偶然と必然の美を、真剣に探究  
してこられました。

私達は、書と向き合い、作品づくりをする  
ための手段として「臨書」している、という  
自負を持つことから始めたいと思います。

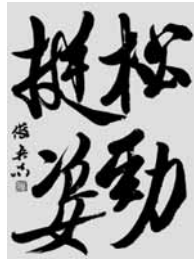
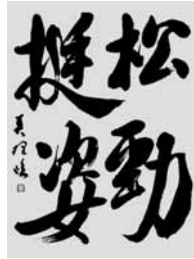
今回の作品は、捉えにくかったかと思いま  
すが、書道芸術院の将来は明るいと感じてい  
ます。



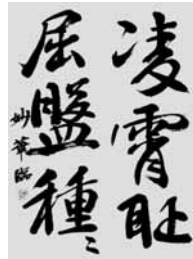
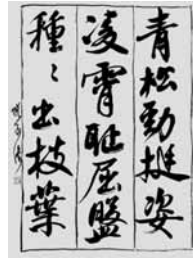
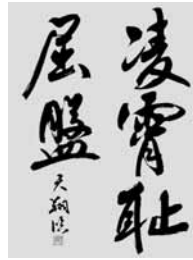
杏 春 沙 美 潤  
景 莉 楓 月



泰 侑 孝 雅  
香 蘭 洋 秋 悠



邑 美 真 幸 玲 俊  
里 梢 理 城 子 吾



恵 天 悦 明 四 妙  
泉 翔 子 美 峰 華





ペン字部

◇楷書

第一種 楷書 (1枚)  
第二種 楷書・行書 (計2枚)

特別昇段級試験の漢文解説

◎漢字部第二種

龔自珍「餽鮑誼」

循環無極(循環して極まり無し)

↓月の満ち欠けはめぐりめぐって終  
わることがない。

アヘン戦争後、物価が急騰し、丸い  
パン(餽鮑)の値段も倍になり大きさも  
半分以下になってしまった。でも月が  
満月に必ず戻るように、五百年もたて  
ばまんまるの大きなパンが安く買える  
ようになるだろう、とうたう。作者は  
清国の現実に絶望し、希望は未来にし  
かないと考えているようだ。

◎漢字条幅部第一種

岑参「初過隴山……」

萬里奉王事(万里王事を奉ず)  
↓万里のかなたで天子のために務め  
る。

盛唐の詩人岑参は35歳で西域に赴き、  
多くの辺塞詩の名作を残した。この詩  
は初めて安西都護府に向かう時の感慨

を示した詩。どんなに苦勞があっても、  
職務に精勵する覚悟をうたっている。

◎漢字条幅部第二種・第三種

文天祥「金陵歌」の3・4句と5・6句

草合離宮轉夕暉 孤雲飄泊復何依

山河風景元無異 城郭人民半已非

滿地蘆花和我老 舊家燕子傍誰飛

從今別却江南路 化作啼鶯帶血歸

(草は離宮に合して夕暉転ず 孤雲飄  
泊し復た何にか依らん

山河風景元異なる無し 城郭人民半

ばは已に非なり

滿地の蘆花我と和に老い 旧家の燕

子誰に傍うてか飛ぶ

今従り江南の路に別れ却る 化して

啼鶯と作り血を帯びて帰らん)

↓離宮は草におおわれ夕日の光が移っ

てゆく。ひとひらの雲よ、流れさす

らいどこに身を寄せるのか。山河の

たたずまい、風、日光は昔と違わな

いのに、町や人々の大半は変わって

しまった。地をおおう声の花は私と

同様に老いた。もとの家を失った燕

は、誰のところに飛んでゆくのか。

これから私はこの江南の地を別れ去

る。再び戻ってくる時は血を吐くほ

ととぎすに化身していることだろう。

南宋の右丞相として元軍に抵抗し

ていた作者がついに捕虜となり、金

陵今の南京を通った時に作った詩。

主家を失った燕である自分は最後まで

で戦い、故国の回復を目指そうとい

う悲愴な願いが込められている。

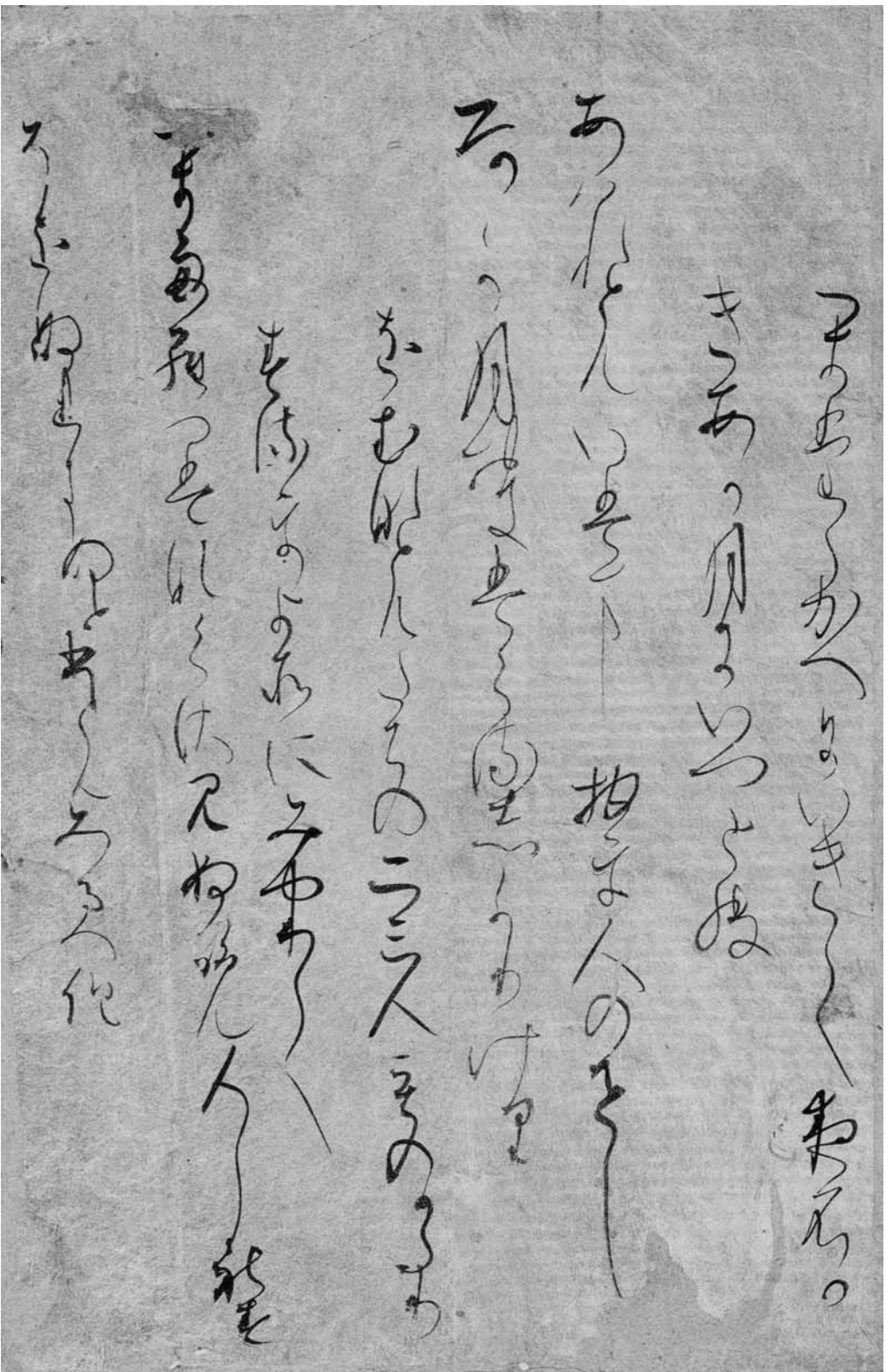
◇行書

作家や詩人などの書が個性  
的で魅力的なのは、彼らの  
文学や人生を加味して鑑賞  
できるからだ。技術を超越し  
た美が存在する。。書

作家や詩人などの書が個性  
的で魅力的なのは、彼らの  
文学や人生を加味して鑑賞  
できるからだ。技術を超越し  
た美が存在する。。書

作家や詩人などの書が個性  
的で魅力的なのは、彼らの  
文学や人生を加味して鑑賞  
できるからだ。技術を超越し  
た美が存在する。 ○○書

☆P11の「和泉式部続集切（伝藤原行成筆）」の課題を原寸で示しました。ご活用下さい。

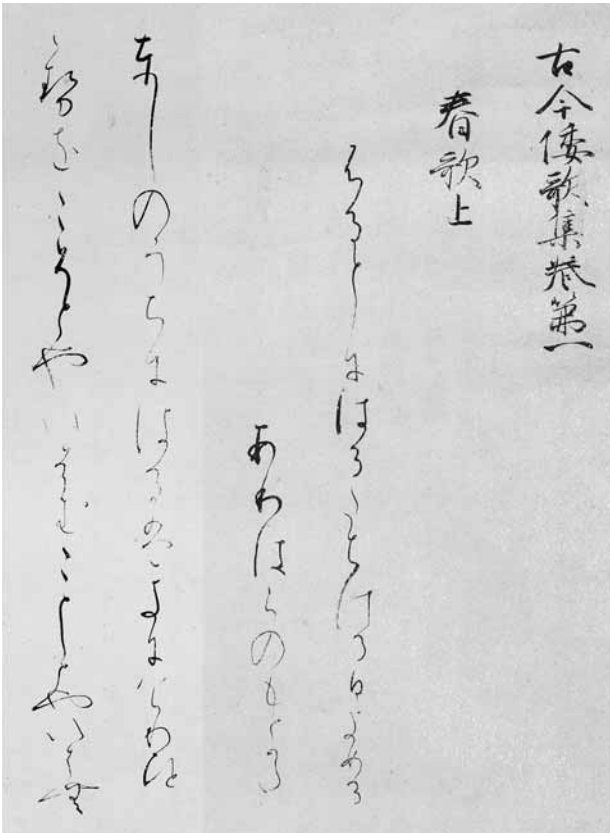


※4行目「お」の2画目が消えています。補って書いて下さい。



古筆鑑賞 ②41

高野切第一種 (伝 <sup>きのつらゆき</sup>紀貫之筆) ①

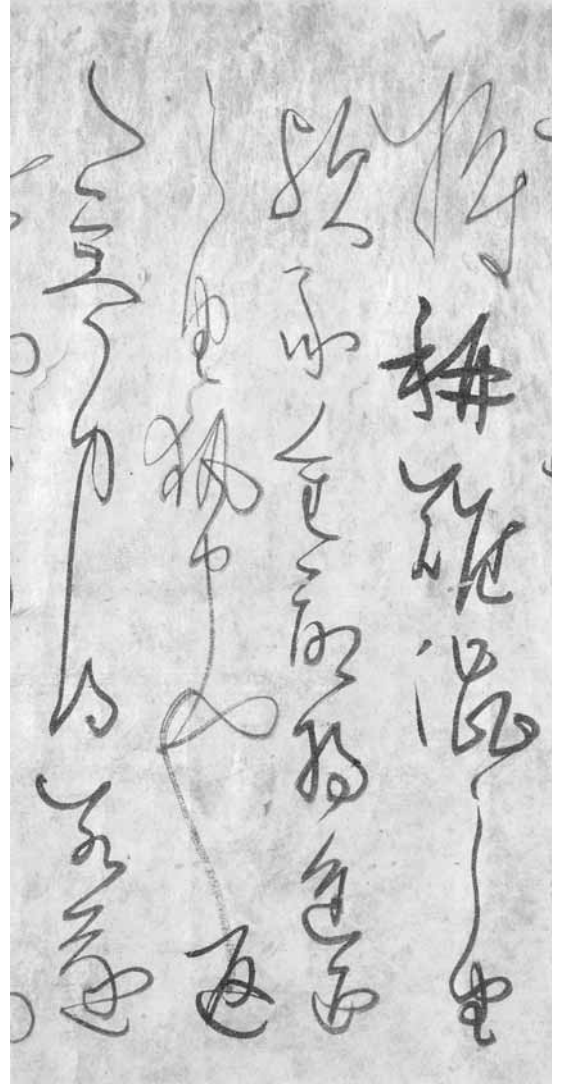


(掲載図版・45%に縮小)

〈よみ〉  
古今倭歌集卷第一／春歌上／ふるとしにはるた  
ちける日よめる／ありはらのもとかた／としのう  
ちにはるはきにけりひと／せをこぞとやいはむ  
ことごとやいはむ

古典鑑賞 ④67

佐理書状① (恩命帖)  
<sup>さり</sup> <sup>おんめいじょう</sup>  
<sub>すけまさ</sub>



(掲載図版・50%に縮小)

将称難波之由／敷。承重  
命、将進返／之田執申也。  
返／々参申侍。若逐



●篆刻

【4月15日締めきり】

〈出品規定〉

- ①摹刻 (ア)課題による語句 (イ)原印自由 (出品の際、原印) (のコピー添付)
- ②創作 語句自由

- 印面の大きさは2.3cm(八分角)以内とし朱文、白文自由。
- 印箋は市販のもの、半紙横 $\frac{1}{2}$ の大きさに切ったものも可。
- 応募は①か②のどちらかとする。

3月号 篆刻課題

〈原印コピー〉



齊白石

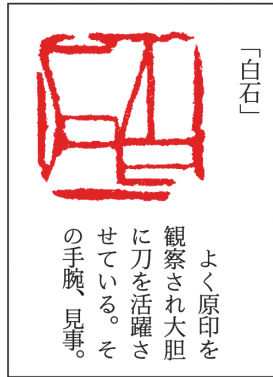
「平翁」

◎出品方法

用紙の右側に押しし、左側に印影の釈文を明記、並びに落款(氏号)を入れる。

753号篆刻優秀作品

篆刻特選 中川 研治



「白石」

よく原印を観察され大胆に刀を活躍させている。その手腕、見事。

創作特選 藤井 龍仙



「真仙」

独特の構成と刀意の強さで創り上げている。その意欲が良い。

◎篆刻部総評

篆刻、創作ともに、少数精鋭的な雰囲気に変化してきたように思います。さらに多くの方々の御応募を祈念申し上げます。(大峰評)

選評 後藤 大峰

(摹刻) 特選 中川 研治  
秀作(50音題) 遊雲 中川 研治  
芳琴 小野寺幸喜  
大綱 片岡 豪峰  
蒼原 庄司 櫻空  
白琉 平塚 由香

(創作) 特選 藤井 龍仙  
秀作(50音題) 新栄 加藤 万丈  
生大 中昌 義則  
やま 橋本 清麗  
佳作(50音題) 慈空 坂本 覚山  
石心 篠田 華所  
香書 須賀澤 一起  
趙雲 吉田 恵弦

入選(50音題) 石心 成田 能喜  
生大 吉原 進  
(選外1名氏名略)

入選(50音題) 唯一 逢沢 唯一  
遊雲 赤星 文庵  
游水 荒川 裕泉  
水荃 高岡 秀汀

今月の注目作

吉田 恵 弦



「趙雲」

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は

101-0031 東京都千代田区  
東神田1-16-7  
東神田プラザビル3階

公益財団法人 書道芸術院

電話(03)38662-1954  
FAX(03)38662-1957

ご連絡等は月曜日～金曜日 10時～16時の間に  
お願いいたします。(土・日・祝日は休み)

送料

- 1か月の購読部数がある
- 1部～9部までの1回の郵送料
- 1部 79円
- 2部 95円
- 3部 103円
- 4部 119円
- 5部 135円
- 6部 151円
- 7部 167円
- 8部 183円
- 9部 199円
- 10部以上は送料免除

令和六年 二月二十五日印刷  
令和六年 三月 一日発行

定価 1部 七五〇円

編集兼 発行人 下谷 洋子

データ処理 株式会社 リンクス  
印刷 小沢写真印刷株式会社

発行所 公益財団法人 書道芸術院

〒101-0031 東京都千代田区東神田1-16-7  
東神田プラザビル3階  
電話(03)38662-1954

FAX(03)38662-1957  
振替 0015014135058  
http://www.jlincs.co.jp/shogei/